

皇太子殿下との山行裏話

今回は、皇太子殿下に同行した時の裏話を皆さんにお話ししようと思う。

その一 話のネタが無くなつてる！

事前に侍従の方から「植物のことなどなんでもお話しして下さい。」と言われ、そのネタを探しながら下見を行った。だが実際に殿下をご案内するのは十一月、一月先を見越しての素材探し。日の出山の山頂にはリンドウやセンボンヤリの閉鎖花などがあり、これは使えると踏んでいた。また東雲山荘のほんの少し手前には、雷によって真っ二つに裂けた杉がありこれもネタの一つと考えていた。

さて当日、もうすぐ東雲山荘である。さあここで雷の威力を解説しようと右手を見る。あれ無くなってる。なんと処理されてしまつて切り株しか残っていないではないか。仕方なく素通

り。気を取り直し山頂の手前、ここでリンドウとセンボンヤリの子定。石段の脇にはリンドウが咲いているはず・・・ん！無い！。それではセンボンヤリは？これも無い。話のネタが消えているではないか。時期を誤ったかとも思ったが、そんなことはないはずだ。周囲を見ると杉や松の枝はきれいに落とされ、草は刈られている。やつてくれたな〇〇町。

殿下が来られるとのことで、山頂をきれいにしたのである。気持ち解るのだが、こっちの身にもなつてくれ。



その二 殿下に食べさせちゃつた

愛宕神社の奥社を過ぎると、少々道は険しく、下りがきつくなる。しばらく進むと、石碑の林立する場所に遭遇する。即清寺の山内四国八十八箇所霊場である。殿下も興味津々。しかし時間の都合ですべてを見ることはできなかつたが、写真好きの殿下はそれでも何枚か写していた。

さあもう少しで到着というところで、道の脇には冬イチゴがびっしり生えていた。よく見ると、小さいが赤い実をつけている。大きそうな実を選んで食べてみる。甘酸っぱい野生のイチゴの味である。殿下にも勧めてみると、いくつかつまんで口に運んだ。すると後ろにいた侍従も一緒に食べ始めたではないか。変な物を口にして殿下が体調を崩したらどうしようというための毒味？

いつもの解説の癖で、食べられるものなんでも食べてみようと言う姿勢が徒になつてしまった。殿下ごめんさい。でも美味しかったでしょ。

表紙写真 鈴木 新吾

「月の御岳」

古来より雪・月・花の三御嶽信仰が有りと言われ、御岳山は月の御岳と呼ばれております。山上の凜とした澄んだ空気の中で月を見上げると、ただそれだけで神聖な心持ちになるのはなぜでしょうか・・・

あとがき

天照大神の司る昼の世界・月読命の司る夜の世界。光と影の中それぞれに重要な役割を持ち、一方だけが無くなる事は無いでしょう。同様に、この世に生かされるすべてに、役割があり、その役割が無くなれば、同様に影の役割も消えてしまうのでしょうか。ご自身が神により与えられた役割は、必ず何かに繋がっています。貴方の持つ役割は何でしょうか。信州そばの会講元 三井勝人様、中川卓郎様、ピジターセンター片柳様には、玉稿をありがとうございました。

平成二十五年三月八発行  
〔年二回発行・非売品〕  
編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四六(七八)八五〇  
FAX 〇四六(七八)九七四

印刷 (株)成和印刷  
http://www.musashitakejinja.jp/